

推し本の魅力 熱く紹介



推し本の魅力を発表した「第13回ビブリオバトル in 八戸」の予選会=19日、デーリー東北新聞社

6人、11月決勝戦へ

知的書評合戦 BIBLIO BATTLE IN HACHINOHE

「推し本」の魅力をそれぞれ発表。観客による投票の結果、6人が「チャンプ本」の栄誉を懸けた決勝戦に進んだ。
(井上周平)

知的書評合戦「第13回ビブリオバトル in 八戸」(デーリー東北新聞社、八戸学院大共催)の高校生、一般の部予選会が19日、八戸市のデーリー東北新聞社で開かれた。青森県内の読書好きが一堂に会し「推し本」の魅力をそれぞれ発表。観客による投票の結果、6人が「チャンプ本」の栄誉を懸けた決勝戦に進んだ。

本社で高校生、一般の部予選会

決勝戦進出者は次の通り。(氏名、年齢、居住地、所属、紹介した本のタイトル、著者、敬称略)

▷石鉢絵椰(15)=八戸市、八戸東高1年=「四日間家族」(川瀬七緒)▷大坂雪音(17)=八戸市、八戸東高3年=「かわりに嘘」(鈴木七月)▷藤谷しずく(17)=六ヶ所村、八戸聖ウルスラ高2年=「葉桜の季節に君を

想うということ」(歌野晶午)▷田中静子(62)=八戸市、フリースクール経営=「生成AIと脳 この二つのコラボで人生が変わる」(池谷裕二)▷高興浩明(62)=五戸町、町議=「冬眠の生命科学」(山口良文)▷若松楓佳(21)=八戸市、八戸学院大4年=「幽霊人命救助隊」(高野和明)

ビブリオバトルは、発表者がお気に入りの本を持ち寄って魅力を紹介し、観客らが読みたくなった本を投票で決めるコミュニケーションゲーム。大会は2014年から実施している。

予選会には28人が高校生と大学・一般の部に出席。持ち時間5分の中で、小説やビジネス書など「推し本」について、自身の体験や感想を交えながら魅力や特

色を伝えた。発表後の2分間の質疑応答でも、参加者同士のユニークなやり取りで交流を深めた。

投票は各部門を3グループに分けて行われ、各グループで最も多く得票した6人が予選を突破。決勝進出が決まった6人は「推し本をもっと多くの人に読んでもらいたい」「プレゼンのやり方をもっと工夫して臨みたい」など意欲を見せていた。

決勝戦は、予選を実施しなかった中学生の部を含め、11月7日午後1時から本社6階メディアホールで行う。特別ゲストとして、

25年本屋大賞受賞作「カフネ」の作者阿部曉子さん(岩手県在住)のトークイベントも行われる。観覧無料。

問い合わせは、デーリー東北新聞社地域ビジネス部「ビブリオバトル」係。電話0178(80)7299へ。